

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年 8月 24日

氏名 (フリガナ)	中島 文 (ナカジマ アヤ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2017年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	愛知医科大学
学年	5年

今回、医学部夏期集中医学英語研修プログラムにさせて頂くことができ、大変充実した時間を過ごすことができました。本当にあつという間に時間が過ぎてしまい、プログラム初日にあれほど不安だったのが嘘のように感じられます。

私が今回このプログラムに応募した理由としては、大きく次の3つがありました。まず、来春に予定しているアメリカでの臨床実習留学に備え、英語での問診や **case presentation** ができるよう能力を向上させたいこと、続いて、将来日本国内で勤務することになっても、世界共通語である英語での診察は最低限できるようになっておきたいこと、最後に、将来海外での臨床医を目指すかを決める前に、海外の医療の実情を知っておきたいこと、です。

1つめの英語での問診や **case presentation** 能力の向上に関してですが、毎日ハワイ大学の学生に対し問診をとり、先生方の前で **case presentation** を実施する機会を与えて頂き、期待していた以上に成長できました。やはり実践あるのみだと実感しましたが、日本ではなかなかこのような機会を得ることができないため、大変有意義でした。続いて世界共通語である英語での診察ですが、実質4日間のプログラムではそこまでは至らず、導入の問診のみ実施に留まりました。しかし、問診でかなり確定診断に近づくことができるうえに、問診で得た情報を元に身体診察を実施するため、その基礎となる問診の能力さえしっかりと身につけていない段階では、私が少し欲張りすぎていたかなと思います。最後に、海外の医療の実情を知ることに関してですが、いくつかの病院を見学させて頂き、また、実際にハワイで働いておられる先生方のお話を伺うことができ、かなり具体的なイメージを持つことができました。また、留学を考えている学生仲間と知り合うことができたのも、大きな収穫でした。

この研修報告書を読まれている方の中には、来年度以降の本プログラムに参加しようか迷っている方もいらっしゃるかと思います。私も、5年生の夏ということで、病院見学もしたいし、休み明けに試験もあるし、できたら臨床実習留学に向けて短期英語留学もしたいし、と迷っていました。しかし、伴信太郎先生に背中を押していただき、参加する決心をしました。結果として、本当に参加して良かったと実感しています。たった6日間のプログラムで、これほど多くのものを得、多くの人と出会い、技術を向上させ、成長できるとは、想像以上の体験でした。確かに、朝8時半から夜10時近くまでのスケジュールというのはかなり過密ですし、自分の不甲斐なさに落胆することもあります。しかし、それでもなお、参加して本当に良かったと思います。なかには、英語が得意ではないから、と参加をためらっている方もおられるかと思います。しかし、先生方はわかりやすいように話してくださいますし、ハワイ大学の学生も私たちのつたない英語を理解しようと努力してくれます。しかし、**case presentation** の際、鑑別診断としていくつか疾患を挙げる必要があるため、疾患名をある程度英語で言えるよう勉強していく必要はあるかと思います。私は「緊張性頭痛」が英語で言えず、もっと勉強してくれば良かったと思ってしまいました。

最後になりましたが、このプログラムに尽力して下さったすべての方に感謝し、この経験を活かしてより成長していきたいと思っております。本当にありがとうございました。